



2010年12月27日発表  
日中環境ジャーナリストセミナー

## 中国のエコタウン、ゴミタウン、ダムタウン —中国の“緑色”経済の光と影—

年率10%の経済成長とエネルギー効率の「40～45%の向上」の両立を目指す中国には、様々な表情があります。低炭素都市インフラの実験場となる「エコタウン」、数十万人がゴミ処理場の内外で暮らす「ゴミタウン」、ダム開発に揺れる「ダムタウン」。これらの現実をどう見るか、どう書くか日中のジャーナリストが議論します。

日 時 2011年1月27日（木）18:30～20:30（受付18時～）  
会 場 日本プレスセンター9階大会議室（東京都千代田区内幸町2の2の1）  
主 催 日本環境ジャーナリストの会、早稲田環境塾  
申 込 所定用紙にてFAX、またはメール [ask@jfej.org](mailto:ask@jfej.org) にお申込ください  
定 員 50名  
資 料 代 500円（**報道関係者無料**）

### 第1部 エコタウン、ゴミタウン、ダムタウンをゆく

1. 中国最大級の「低炭素パイロット都市」唐山市曹妃甸エコタウンに行く  
吉川成美（早稲田環境塾）、水口哲（日本環境ジャーナリストの会）
2. 百万人がゴミ処理場の内外で暮らすゴミタウン（北京市郊外）で  
原 剛（早稲田大学特命教授）
3. ダムタウン取材して  
汪永晨（Wang Yongchen、中国中央人民ラジオ局記者、民間環境組織「緑家園」創始者<1996年～>、1999年に中国最高の環境の賞「地球賞」を受賞）

### 第2部 パネルディスカッション（含む質疑応答）

「中国の“緑色”と“茶色”をどう報道するか」

司 会 原 剛（早稲田大学特命教授）

パネリスト 金哲洙（日本農業新聞社記者）、竹内敬二（朝日新聞社論説委員・編集委員）、  
田中泰義（毎日新聞副部長）、西川美和子（NHKディレクター）、  
汪永晨（中国中央人民ラジオ局記者） 50音順

問い合わせは日本環境ジャーナリストの会（mail [ask@jfej.org](mailto:ask@jfej.org) tel 03-3813-9735）